

令和4年度生活衛生技術担当者研修会（質疑応答）

自治体名	講義名	質問内容	回答者	回答
川崎市	公衆浴場の衛生管理の推進のための研究について（資料5・P27）	省力化配管洗浄法で使用する薬剤は、既に市販されているのか。また、洗浄剤とはどのようなものか。	国立感染症研究所 泉山講師	研究班で検討している薬剤は、まだ市販はされていない。 洗浄剤については、特許に関連する話のため詳細は控えるが、（安全性の心配がない）食品添加物が使われている。研究目的であれば洗浄剤の提供は可能なので、研究班に問い合わせいただきたい。
川崎市	公衆浴場の衛生管理の推進のための研究について	公衆浴場等の洗浄において、二酸化塩素を使用している施設が増えているが、二酸化塩素の効果について示されたものがないか。	国立感染症研究所 泉山講師	二酸化塩素は強力な消毒効果を持つ薬剤である一方、非常に管理が難しい薬剤でもあり、研究班ではまだ扱ったことがない。研究班における将来の検討課題の一つと考える。
栃木県	公衆浴場の衛生管理の推進のための研究について（資料5・P16~P19）	モノクロラミン消毒について、施設側における導入経費（注入機の設置等）はどの程度か。また、消毒薬のpHが5以上で効果を示すとのことだが、泉質による効き方の違いはあるか。	国立感染症研究所 泉山講師	自前でポンプを設置する場合やアンモニアを含んだ温泉や井戸に使う場合など、モノクロラミン消毒を使用する条件によって導入経費は変わりうる。具体的な導入経費は、諸条件を踏まえ、業者等と相談していただきたい。 また、モノクロラミン消毒の効果が泉質によって変わるという話は聞いたことがないが（研修会后追加：pHの低いほうが消毒効果は高まることが実験的に判明している）、硫黄などの還元性の物質が含まれている泉質や温泉は、塩素系の消毒がそもそも不適當であるため、その点は留意いただきたい。

以下、講義後の追加質問

自治体名	講義名	質問内容	回答者	回答
和歌山市	公衆浴場の衛生管理の推進のための研究について（資料5・P27）	浴槽の大きさにもよると思うが、省力化配管洗浄法での配管等の洗浄頻度は、どの程度行えば効果的と考えられるか。	国立感染症研究所 泉山講師	必要な洗浄頻度は、消毒や換水に循環ろ過等の管理状態によって変化することが予想される。レジオネラの検出やバイオフィルムの付着を予防できれば、効果的と言えるので、各種検査を組み合わせる洗浄の時期をはかるなり、検査を待つことなく高頻度に洗浄するなどが考えられる。
和歌山市	公衆浴場の衛生管理の推進のための研究について（資料5・P27）	省力化配管洗浄法で使用する薬剤について、研修会ではまだ市販化されていないと回答いただいたが、近いうちに販売される予定はあるのか。	国立感染症研究所 泉山講師	販売予定があると聞いているが、詳細は承知していない。